

## 陳 情 文 書 表

受付番号	第3号
受付年月日	令和2年11月20日
件 名	三田市立学校再編計画（第1次計画）は白紙撤回し、コロナ禍の対応も踏まえ十分な議論の時間を保障することを求める陳情書
陳 情 者	三田市 <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 地域での幼稚園・学校をまもる会 代表 長谷川 美樹
要 旨	<p>&lt;陳情の要旨&gt;</p> <p>平成30年12月、「三田市立学校再編計画（第1次計画）」を発表し、その中で「計画の目的」や「望ましい学校規模とその主な理由」を示しています。</p> <p>「計画の目的」の中で、「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重する態度を養います」とし、「子ども同士が『学び合い、高め合える』環境を保障することで、多様で心豊かな出会いの場を提供し、社会性を培います」としています。</p> <p>11月11日開催の上野台中学校区部会で、上野台中学と八景中学との部活の交流で、「それぞれを気遣いながら交流している」と互いを高め合う社会性、行事を通しての思いやり、地域の中で子どもたちが育っていると教師が実感していること、小さな命を慈しむ行動と心の様子など学校での努力とそれによる子どもの人間的発達の様子を校長先生から報告がありました。</p> <p>そこには、まさに小規模、少人数での教育ならではの現在の三田市の素晴らしい教育実践があります。</p> <p>三田市議会においてもこの間、「少人数学級の推進」を国に求める意見書を採択してきております。また、市のホームページで「少人数授業できめ細かな教育の推進」「人数が少ないから発表がしやすいね！休み時間にも教えてもらえるね！」と市独自の教師加配などしながら少人数規模での教育を「三田市教育の特色」にしています。</p> <p>少人数学級の実現をめぐり、11月13日の衆院文部科学委員会で、来年度からの少人数学級の実現に向け、萩生田光一文科相は「不退転の決意で臨む」と述べました。文部科学省は、来年度の概算要求で義務教育標準法の改正も視野に少人数指導体制の整備金額を明示しない「事項要求」として盛り込みました。また財務省の青木孝徳主計局長次長は「われわれ大人が、児童・生徒の声にしっかり耳を傾けていくことは大変重要だ」とも答えています。</p> <p>このように国民の長年の要求であった少人数学級の実現が進めば、今の学校規模でもクラス数が増え再編計画が求めるクラス替えもでき、教員数も増えるため、小規模校の良さを更に生かした教育が可能になると考えます。コロナ禍の対応も踏まえ、早計に統廃合だけに解決策を求めず、市民の声を聞き、議論を行う時間をしっかりと確保する必要があると考えます。</p> <p>こうしたことから、三田市立学校再編計画（第1次計画）を進めることに疑問を持たざるを得ません。そこで以下の項目を求めるものです。</p> <p>なお、八景中学校の諸課題解決は、直ちに予算も含め取り組む問題もあり、学校編成計画とは切り離して対策をとることが必要と考えます。</p>

《陳情項目》

1. 三田市立学校編成計画（1次計画）は、一旦白紙撤回 すること
2. 国や全国の動向も視野に、子どもに最善の教育環境を整えるために、関係するすべての情報を市民に提供し、十分な議論の時間を保障すること
3. 八景中学校の諸課題は、学校再編計画と切り離して、早急に対策をとること